

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム山口あかり園		
所在地	山口県山口市黒川3363番地		
電話番号	083-921-1663	事業所番号	3570300529
法人名	社会福祉法人 博愛会		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 12 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人 非常勤 6 人 (常勤換算 11.9 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 21,690 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	日額 1,300 円(おやつ代含む)			
その他の費用	実費 10,000 ~ 15,000 円 内訳 光熱水費・日用品代等			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者数	18 名	男性 0 名	女性 18 名	
	要介護 1	7	要介護 4	4
	要介護 2	5	要介護 5	1
	要介護 3	1	要支援 2	0
年齢	平均 83.1 歳	最低 69 歳	最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 山口リハビリテーション病院
	歯科 //

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者の好みを反映した献立をたて、地産地消による食材の購入や、園芸活動で育てた野菜を採り入れ、三食共事業所で調理し安全で季節感のある栄養バランスのとれた食事を提供されています。食材の買い出しから、調理や後片付け等を利用者と職員と一緒にしない、同じテーブルで同じ物を食べ、会話をしながら食事が楽しめるよう支援されています。一人ひとりの利用者が生きがいをもって、その人らしく暮らしていけるよう、たくさんの活躍の場面をつくり支援されています。職員間のチームワークが良く、利用者との関係も和やかで、利用者は穏やかに過ごされています。

(特徴的な取組等)

夕方の職員体制を整え、自宅で生活していた時と同じように、夕食後の入浴を行ない、ゆっくり入浴を楽しみ、安眠につながるよう支援されています。外部研修への段階に応じた参加や、法人内研修の計画的実施、内部研修などの充実、資格取得の支援など、職員を育てる取り組みをしておられます。専用の休憩室があり、職員は休憩を1時間とり、ストレス軽減やリフレッシュできるように配慮しておられ、職員の意見や要望等を聞くなどして、職員が働きやすいように取り組まれています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価結果については改善点を話し合い、運営推進会議の地域メンバーを増やすなど、具体的な改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

全職員が評価の意義を理解され、自己評価書の項目の確認を行ない、それぞれが意見を出し合い計画作成担当者が中心になって記入し、副主任がとりまとめられた後、管理者が確認し評価とされています。自己評価がケアの見直しのきっかけとなったと捉えておられます。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、前自治会長、市地域包括支援センター職員、家族、職員等のメンバーで、2ヶ月に1回開催されています。事業所の状況や活動を報告し、テーマ(認知症について、インフルエンザ、災害について、その他)を決めて話し合い、市からの情報提供、家族からの要望など、活発な意見交換を行ない、出された意見をサービスに活かされています。欠席の家族には会議の議事録や資料を渡されています。

(家族との連携状況)

月1回発行のホーム便り、請求書、領収書のほか、一人ひとりの健康状態や暮らしぶり、連絡事項等を記した手紙を添えて送付されています。家族の面会時や電話等でも知らせたり、家族からの意見や要望を聴かれるなど連携を図っておられます。

(地域との連携状況)

神社の祭り、公民館の文化祭等への参加、地域との共催で行なわれる「納涼ふれあい祭り」での交流、地域の馴染みの店での買い物、美容院の利用、老人クラブの人による庭木の剪定、行方不明時や防災の協力など、地域との関わりを深めておられます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「施設機能の開放・地域住民との交流を図ります」という法人の理念のもと、事業計画のひとつとして地域密着への取り組みをあげ、「家庭的な環境の中で馴染みのある地域との交流をしながら、安心して楽しみのある生活を笑顔で送っていただけるよう支援する」を事業所独自の理念にしている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を事務室に掲示し、申し送り時に唱和して共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>神社の祭り、公民館の文化祭等への参加、地域との共催である「納涼ふれあい祭り」での交流、地域の馴染みの店での買い物、美容院の利用、老人クラブの人による庭木の剪定、行方不明時や防災の協力など、地域との関わりを深めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が評価の意義を理解し、自己評価書の項目について確認し、それぞれが意見を出し合い、計画作成担当者が中心になって記入し、副主任がとりまとめた後、管理者が確認し評価としている。自己評価がケアの見直しのきっかけとなったと捉えている。外部評価結果については改善点を話し合い、運営推進会議の地域のメンバーを増やすなど、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>自治会長、前自治会長、市地域包括支援センター職員、家族、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。事業所の状況や活動を報告し、テーマ(認知症について、インフルエンザ、災害について、その他)を決めての話し合い、市からの情報提供、家族からの要望など、活発に意見交換を行ない、出された意見をサービスに活かしている。欠席の家族には会議録や資料を渡している。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市地域包括センターとの連携をとり、必要時には市の担当窓口に出向き情報交換をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回発行のホーム便り、請求書、領収書の他、一人ひとりの健康状態や暮らしぶり、連絡事項等を記した手紙を添えて送付している。家族の面会時や電話等でも知らせている。職員の異動等について運営推進会議や面会時等で報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議や家族の面会時、電話等で家族の意見を聞いて運営に反映させている。相談や苦情を受け付ける窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	15名の職員を確保し、利用者や家族の状況の変化、職員の急な休み、必要な時間帯等に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。1階と2階とに各ユニットが有り、建物の構造上エレベーターの使用のみの行き来で夜間を1名の夜勤者で対応しており、利用者の重度化、停電時、災害時等に於いて不安がある。	・ユニット毎の夜勤者の確保の検討
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は必要最小限に抑える努力をしている。職員が変わる場合は2週間程度の重複勤務をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。専用の休憩室があり、職員は休憩を1時間とり、ストレス軽減やリフレッシュ出来るように配慮しており、職員の意見や要望等を聞くなどして、職員が働きやすいように取り組んでいる。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は職員の経験年数等の段階に応じて研修に参加できる機会を勤務の一環として提供している。受講後は復命報告を行い、職員会議で内部研修をして、資料を供覧し全職員で共有している。法人内研修も計画的に実施し、資格取得の支援など、職員を育てる取り組みをしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の施設部会等の会議や研修に参加し、同業者との交流をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、それまでの入居先(施設等)を訪問し事前に本人や家族と面会して話を聞いたり、本人や家族に事業所を見学してもらい、茶話会への参加(3回程度)や体験宿泊をしてもらうなど、職員や他の利用者、事業所の雰囲気を徐々に馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は日々の生活を利用者とともにいながら、一方的な関係にならないように、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せ、思いを共感して理解し、本人から学んだり、支え合う関係づくりに努めている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努め、生活記録にそのままの言葉で記録し、ケアに活かしている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>半年毎のカンファレンス(半期・更新)やモニタリングには家族も参加し、月1回のカンファレンスにおいて把握した本人の思いや、往診や受診時に医師からの意見をもらい、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングを行ない、定期的な見直しをするとともに、状況に変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>美容院や病院への付き添いや送迎をしたり、外食の支援など柔軟に対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医がかかりつけ医となっており、月1回の往診や年1回の健康診断、状況に応じて日中・夜間も適切な医療を受けられるよう支援している。専門医等への受診には家族と一緒に職員も付き添い主治医からの必要な情報を伝えるなど連携を図っている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に重度化した場合の対応について、本人や家族に説明し、意向を確認し、職員全員で共有している。実際に重度化した場合は、その都度かかりつけ医に相談し、本人・家族の意向を尊重しながら話し合い、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、職員会議で話し合うなどして、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように気をつけている。記録等は事務室内に保管し、個人情報の取り扱いには注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、健康状態も考慮しながら希望に沿った支援をしている。事業所の雰囲気は自由で明るく、利用者のそれぞれの過ごし方に合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを反映した献立をつくり、三食共事業所で調理している。食材の買い物、食事の準備、調理、食事、片付けを利用者と職員と一緒にしている。職員も同じ食事を食べ、会話をしながら食事が楽しめるよう支援している。郷土料理、季節に合わせた料理、誕生会の料理、お花見の弁当など工夫している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日、夕食後の19時から20時ごろまで、ゆっくり楽しめるよう支援している。夜間の入浴は睡眠促進効果に繋がっている。利用者の状況や希望により昼間の入浴にも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビを視聴したり、新聞を読んだり、歌を歌ったり、人形づくり、雑巾縫い、毛糸編み、書道、干し柿づくり、ラッキョづくり、料理、畑仕事等、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、気晴らしや生きがいに繋がるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩、買い物、ドライブ、外食など、一人ひとりの希望に沿って外出の支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっとメモ、事故報告書に記録し、月1回行なわれる隣接施設との合同の事故対策委員会で改善策を検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。一人ひとりの状態に応じて介護計画に採り入れ事故が起こらないように努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、全職員が蘇生法やAED使用法を受講し応急手当や初期対応ができるようにしている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、隣接施設との合同で実施している火災避難訓練に利用者も参加している。事業所でマニュアルに基づき計画を立て、日中・夜間の想定訓練を行なっている。自治会の協力を得られるよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の説明書を個人記録簿にファイルして、職員は一人ひとりが使用している薬の情報について理解しており、薬は手渡しして、服用を確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯は洗浄し、歯ブラシやコップを定期的に消毒、歯ブラシの交換などの支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の好みを聞き、担当職員が他の職員の意見を参考にし、献立を立て、栄養バランスについては、併設施設の栄養士に定期的にチェックしてもらい、栄養バランスのとれた食事を提供している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、研修等で予防の意識を高め、手洗い、うがい、面会者のマスク着用、手すりやトイレの消毒など予防を実行している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	窓が多く明るい共用空間には、利用者の作品や日めくりカレンダーが飾られ、季節の花が生けられ、窓の外には干し柿が吊るしてあるなど季節感がある。調理の音や匂い、笑い声など、生活感があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。リビングのソファ、ウッドデッキなど、一人ひとりの居場所があり、少人数で過ごせるよう支援している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全室が畳で、一人ひとりの好みで和室にする人やベッドを持ち込む人など、それぞれのスタイルで生活できるよう支援している。テレビや机、本棚、生活用品など、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム山口あかり園
所在地	山口市黒川3363番地
電話番号	083-21-1663
開設年月日	平成13年8月1日

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム山口あかり園 けやき荘			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	3	要介護4	2
	要介護2	2	要介護5	1
	要介護3	1	要支援2	0
年齢構成	平均 84歳	最低 69歳	最高 96歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員が内容確認し、計画作成者が中心になり評価記入し、副主任が取りまとめた後、管理者が最終確認を行った。
評価確定日	平成21年10月28日

【サービスの特徴】

利用者個々の人権・人格を尊重し、生きがいがあり楽しみのもてる共同生活を送っていただき、認知症状の安定改善を図っています。介護(予防)計画に基づいた個別ケアを実施しています。開設当初より取り入れている園芸活動では、利用者と一緒に季節の花を植えたり野菜を栽培して季節感を味わい収穫の喜びを実感していただいています。食事に関しては、地産地消による食材の購入をし、安全で馴染みのある食材を使い、郷土料理や利用者の嗜好を取り入れた献立を作成し三食とも利用者と一緒に調理しています。入浴に関しては、毎晩夜間入浴を行い、ゆったりとした気持ちで入浴していただいています。地域との交流を大切にし、馴染みのある地域のお店での買い物・美容院や外食、ドライブに出かけたり、祭りや文化祭等の地域行事にも積極的に参加しています。同敷地内にある病院・老健・特養等があり、医療・保健・福祉の連携のもとサービスを提供しています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		地域住民がいつも気軽に立ち寄りてもらえる様な働きかけに取り組みたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		今後も左記のことを継続していき付き合いを深めていきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域住民に認知症に関する情報を発信し、認知症の理解を深めてもらうよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で自己評価の内容確認後評価したうえで外部評価を実施する意義を理解すると共に、前回評価結果での改善点については見直し、改善方法の共有を図り具体的に取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的に開催し利用者の活動状況や地域・市との情報交換、家族からの要望、意見交換等を行い、決定事項を活動に取入れサービスに活かしている。都合により欠席された家族には会議内容・資料等を送付又は手渡ししている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターとは日ごろから連携をとっている。書類提出や確認事項等がある場合は、管理者や職員が市の担当窓口に行き、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	施設内外研修に参加し、制度についての理解を深め支援できるように努めているが、活用する機会がないので職員間での意識はやや乏しい部分がある。	全職員が必要な方への活用支援が出来るよう、今後も施設内外研修に参加し制度への理解を深めていきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内外研修に参加し理解し意識を深めているが、日常業務の中で無意識のうちに虐待になっていないか、職員間で確認し、話し合い、防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学(見学時に施設の概要、料金等の説明を行う)や園内行事の茶話会時の参加等で理解・納得を図っている。入居時には重要事項説明書と契約書をもとに十分な説明を行い理解・納得の上契約を結んでいる。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見・不満・苦情は直接職員への伝達が困難であるため、常日頃から利用者へ寄り添い日々の状況把握に努め、思いを受止め早急に対応できるようにしている。苦情申出窓口・ご意見箱を設置している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	生活状況は月1回発行のホーム便りで報告し、送付時に個々宛に健康状況や連絡事項等を書いて同封している。家族の面会時にも暮らしぶりや健康状況等報告している。必要に応じ電話連絡も行っている。職員に関することは運営推進会議で行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		情報に変更が生じた場合には直ちに新しく作成している。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		職員一人一人が運営に関する知識や理解を深め積極的に意見や提案を発言できる状況作りに努めていきたい。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		今以上に柔軟な対応ができる様職員数の確保に努めていきたい
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		施設外研修については、職員の経験年数や希望を考慮し段階に応じて参加できる機会を提供している。職場内研修も計画的に実施している。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		職員の年齢は20代から60代まで幅広い。職員全員が周辺在住であり、昔の話や地域の様子等共通の話題を通してコミュニケーションが図れている
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他施設の職員との情報交換・交流・職場体験ができる機会をつくり互いの想いを話せ、よりよいケアに向け切磋琢磨環境を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		他施設との仲間づくりを通じて外部との情報交換や活動参加の機会を増やし職員のスキルを高めていきたい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		給与面等での職員評価を適切に行えるようにより努めていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		職員の利用者への発言が支持的になったり、職員同士の意識の持ち方に違いがあり、ケアより業務となってしまう場合もあり、尊重しながら生活に寄り添っていくという意識付けを研修やカンファレンス等で徹底していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	三ヵ月毎のモニタリングや半期ごとのカンファレンスを通じ、家族の意見をきき、より密に相互・連絡を行いながら一緒に利用者を支えていくことに努めている。		今後も気軽に立ち寄って頂き利用者だけでなく家族の問題も喜びも一緒に考え感じることでよりいっそう家族との関係を深めていきたい
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	気軽に利用者のもとを訪れやすい雰囲気作りに努めると共に、職員の対応の仕方等常に配慮し伝え方など職員あるいは家族から各々一方的にならないよう心がけている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの場所へのドライブや買物等、一人一人に合わせて対応している。面会等いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう雰囲気作りに努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように努めている。	家庭的な雰囲気のもと利用者同士がゆっくりと過ごすことが出来るように、ソファ等を設置している。ホール座席も利用者同士の関係性を考え、常に職員が間に入り会話や活動等して楽しく過ごせるよう配慮している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後の対応方法について家族の意思を重視し可能な限りの支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や言動・家族からの情報等から、本人の思いの理解に努めている。困難な場合でも表情や仕草等よりどのような思いなのか職員間で検討し記録に残しカンファレンス等でケアの共有を行いサービスにつなげている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に、本人・家族から生活歴等を聞きバックグラウンドアセスメント票を作成し、本人の状態について把握に努めている。まだ生かされていない部分もある。		職員一人ひとりが得た情報はしっかり記録等で伝達していき全員が情報を把握できるよう努めていく。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録や個々の「出来ること・出来ないこと」を見極めながら、日々の生活状況・生活リズムの把握につとめている。普段と違った言動等見逃さず記録に残し体調管理と共に総合的に把握するよう努めている。		ちょっとした変化の見落とし等があると思うので、全職員の意識の持ち方をより向上させていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を聴きケアプランを作成している。ニーズを明確にし長期目標・短期目標を設定し達成できるようサービス内容を検討している。またニーズに対応できるようカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族に出席して頂き、定期的にカンファレンスを行い見直しをしている。またそれ以前に変化が生じたときは本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録・ケアプラン評価表に、日々の様子や月1回の評価・反省として記録を残している。その実施結果を基にケアカンファレンスを行い全職員が情報を共有し実践や介護計画を見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同敷地内にある他施設の催し物に参加したり、緊急時における応援体制を確立している。また隣接の病院より月1回の往診を受け日中・夜間共緊急時対応できる体制をとっている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる清掃活動や地域園児・高校短大実習生との交流等はあるが施設への受入れが中心で、こちらから地域へ出かけ働きかけをするまでにはしていない。警察・消防については強力体制が整っている。	公設機関・教育機関・民間施設等にGHを知っていただけるような冊子を配布したり地域の活動行事にも積極的に出向いて行き地域と協働で支援が出来るよう取り組みたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族・近隣住民・ボランティア等の施設見学について、気軽に立ち寄っていただけるような体制をとっている。併設の施設の機能を含めて地域開放している。	施設機能をより開放していくよう努める。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人・家族の意向で、外部の宅老所の利用を支援している(1名)。身体状況の変化によっては他施設・病院の介護支援専門員やソーシャルワーカーとも連絡をとっている。	必要に応じ、入居前の担当介護支援専門員等との情報交換等できるように関わりをもっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		認知症の専門医に気軽に質問や相談が出来るような関係を築いて利用者が安心して受診できるよう支援していきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		他医療機関の病院関係者との情報交換を密にし、連携強化に努めたい。今後も家族・病院側の了解が得られれば、カンファレンスへの参加をしたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後重度化に伴い終末期のあり方について家族と話し合う機会をもつとともに、職員の認識を高めることに努めたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後重度化に伴い終末期のあり方について家族と話し合う機会をもつとともに、職員の認識を高めることに努めたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個々の人格を尊重し、言葉かけや対応には十分配慮しているが、十分でない点もある。記録類は事務室内に保管し、不必要になった書類はシュレッダーにかけ破棄している。</p>	<p>個人情報については規程を設けているが、プライバシーについては、ケアや日常生活それぞれの場面で配慮した声かけ・空間設定を行い、職員全員の共有の意識を図りたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いや希望が表せるような声かけに配慮しているが、まだ職員の一方的な思い込みで判断する場面や説明不足で混乱する場面が見られる。スピーチロックにならないよう心がけている。</p>	<p>利用者一人ひとりの思いに添ったケアを目指し、利用者を尊重し、利用者の立場に立って寄り添える意識をしっかりと共有していく。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできることは見守り、一緒に行いながら、また不十分なところは職員が再度行い支援している。馴染みの物は家族と話し合い自分で管理してもらい、空間設定を大事にしている。また、好きなことや趣味もそれぞれが自由に行え、楽しい時間が持てるよう支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れは決まっているが、利用者のその日の状態を把握し、このペースに合わせた支援を行っている。ホールでも居室でも自由に過ごせたり、他者とソファに座りゆっくり話をしたり、散歩や買物ドライブも毎日行い、自宅での生活に近づけるよう希望に添った支援をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の着がえは自分で用意し、着がえてもらっている。季節感のないものや組み合わせのおかしいものは、プライドを損ねないよう援助している。地域にある美容院に希望のあるときは付き添い、でかけている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>郷土料理・季節にあった食事の提供、利用者個々の嗜好を反映した献立をたてている。食事の準備や調理・片付けを一緒に行い、職員は利用者と同席して食事をしている。個々の専用の茶碗・箸・湯呑みを使用し、楽しい時間を過ごしている。</p>	<p>ひと通りの手順が利用者主体で行えるよう検討したい。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現在、飲酒・喫煙される方はいない。加齢・制限のある方も、おやつは皆と一緒にものをおいしく楽しんでもらえるように提供している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄状態に合わせて支援している。夜間の失敗を考え、パット使用に切り替えることもある。なるべく本人の能力や意向・想いに添った支援をしていきたい。</p>	<p>習慣を活かした気持ちのいい排泄支援について、全職員の共通意識を図っていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日夜間に行っている。利用者の意志・希望を確認した上で入浴してもらい、浴室・脱衣場で2人の介助者が利用者の状態に合わせて支援している。利用者の状況に応じて、昼間入浴を実施する場合もある。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	起床・消灯時間は定めておらず、日中を含めてその方のペースに合わせて支援している。夜間不眠の訴えがあるときは、話を聴き、付き添い、安心して眠られるよう支援している。また、自室に馴染みの家具等を置き、安心できる空間作りを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	「できること」「できないこと」を見極め、一人ひとりが役割を持ち楽しみがもて、張り合いある日々を過ごせるよう支援している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の意向を重視し、管理できる方は自分で持ってもらい、管理できない方は事務室で預かり、買物時は財布を持ってもらい、職員と一緒にやっている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩したりドライブや買物も毎日行い、気分転換ができるよう外出支援している。		勤務体制上、出かける時間帯や利用者等は職員主導で決めている。利用者の希望に添えるよう、勤務体制の充実を図りたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の参加協力の下、春の花見や秋の紅葉見物など、お弁当を用意し外出することで、季節感を楽しみ、気分転換を図っている。また月に1回レストランや料亭に出かけ、外食の楽しみを味わってもらっている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分でかけられる方には、随時行ってもらっている。知人・友人等からもかかってきたときは取り次ぎ、ゆっくり話をしてもらっている。(事務所内の電話) 暑中見舞いや年賀状は援助にて一緒に書き送付している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、ゆっくり話をしていただけるよう配慮している。過度な声かけや訪室を控え、居心地のよい雰囲気と職員の応対にも気を配り、再度来訪していただけるよう心がけている。(居室は全て個室)		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば随時対応できるよう、食事・入浴・寝具等準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	花見や納涼ふれあい祭りへ家族に参加していただき、一緒に楽しい時間を過ごしてもらっている。	現在、ホームの昼食にご家族を招き、一緒に楽しんで味わっていただく機会を計画している。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束は行っていない。言葉つかい等、徹底されていない部分もある。	スピーチロックについても全職員が正しい理解をし、共通認識の基で利用者に対して尊厳ある支援の取り組みをしていきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は常に鍵を開けている。利用者が外に出るときは、常時、付き添っている。	
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中・夜間を通し所在確認や様子の把握を行い、安全に安心して過ごせるよう努めている。また離園行為があったときにも併設施設との連絡体制も整っているため、迅速な対応が可能。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者にとって危険なものについては、家族と相談し意向を重視した上で、代替えや一部管理(針箱等)をしている。洗濯場・浴室・収納庫については、使用後は施錠している。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告書を作成し、対策など一人ひとりの状態に応じた対応に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告書を細かくまとめ、改善策を検討した上で事故につながらないように、その都度全職員で共有し、発生防止に努めていく。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアル作成はしている。応急手当や対応時の講習にも参加している(全職員が蘇生法やAED使用法を受講している)。	マニュアルをしっかりと把握し定期的な講習が受けられるように努め、全職員が同じ意識で取り組む。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット・事故報告書にて改善策を講じ、発生防止に努めている。	ヒヤリハット報告書については、しっかりとした報告書に書式を変更し、細かく記録分析し利用者の個々の傾向をつかみ、事故につながらないように対策に取り組んでいきたい。また、全職員回覧し、発生防止への意識を共有する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災についてはGH全体でマニュアルに基づき計画を立て、日中・夜間とも想定して訓練を行っている。また隣接している施設と協力体制にあるが、地域住民への働きかけはない。		日頃より地域の方々とのつながりを深め、協力を得られるよう働きかけに努めたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクを考え環境整備をするなど対策を講じている。家族にも利用者の身体状況から様々なリスクを説明し、抑圧感のない生活への支援について話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	協力病院のかかりつけ医や看護師に相談、受診をしている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者が服用している薬は個別にファイルしており、薬の作用・用法・用量なども把握している。変化があれば、すぐに医師に報告し、指示をもらっている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄チェック表にて排便・排尿の確認をしている。また医療との連携もとれている。食事の工夫、散歩やアクティブ活動等を促し、食事や茶話会時での水分補給の声かけも行っている。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアを個々の状況に合わせて実施している。義歯は必要に応じて洗浄剤を使用、歯ブラシ・コップは定期的に消毒し、歯ブラシの交換は担当にてチェックし、交換している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立担当職員が利用者の好みを聞いたり、他の職員の意見を参考にし、栄養バランスのとれた献立を立てている。利用者に応じて、形態や調理法を変えている。併設施設(特養)栄養士に定期的にチェックしてもらっている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症に対するマニュアルを作り、研修や配布物・対策委員会等で、予防の意識を高めている。手洗い・うがいは、利用者・職員だけでなく、面会者にも協力していただいている(マスク着用も)。インフルエンザの予防接種は、希望を聞き対応している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具・食器は全て除菌洗浄後、熱乾燥を行っている。食材も日付をつけ、新鮮なものを使用。生野菜等は手袋着用で調理している。朝の清掃時、台所床は除菌洗浄剤を用いている。衛生チェック表にて毎日項目確認を行い、衛生管理の意識を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、四季を通じて花壇に花を育て、玄関内にも正面には、利用者の生花を置き、飾っている。段差なくバリアフリーとなっている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共有空間は窓が多く明るい。廊下の窓にはブラインドがないので、直接日光が入るため夏場はよしずを使用し対応している。日めくりカレンダーや季節の花々を生け、生活感や季節感など、五感に働きかけている。また、利用者作成の作品(絵)や小物等を展示するなど、落ち着いた雰囲気配慮している。	季節感のある壁面飾りの工夫で、目で楽しんだり懐かしく感じられたり、五感に働きかけゆっくりと心地よく過ごせる空間をより一層作っていきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓とは別に、リビングソファを置き、少人数で過ごせる空間を作り、また、多種の雑誌を見たりテレビを観たり、好きな過ごし方ができるように工夫している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していたものや、馴染みのあるものを持って来てもらっている。家族と相談し、季節ごとの衣類や寝具等、一緒に入れ替えをし使いやすく心地よい居住空間に努めている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者の状況に合わせて、こまめに温度調節している。季節により、除湿や加湿、換気にも配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	建物内部全体がバリアフリーになっており、手すりが取り付けられている。布団の上げ下ろしのできる方は畳に直接敷いたり、機能的なベッドがよい方はベッドを使用したりし、自立した生活が送られるよう安全にも配慮し支援している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには大きく「トイレ」と貼り紙をし、内部のゴミ箱への説明も座った位置で見えるよう大きく説明の貼り紙をしている。トイレもボタンやレバーで流せるよう、利用者の使用箇所により使い分けている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホールより出られる広いバルコニーには、季節の花を植え、お茶を飲みながら楽しんでいる。また専用の畑があり、家庭菜園として一緒に植えつけから収穫まで行い、また、テーブル・イス等を置きゆっくり過ごせるようにしている。ベランダは洗濯物干し場となっており、各々自分で干し取り込んでもらい、日常の活動支援をしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム山口あかり園
所在地	山口市黒川3363番地
電話番号	083-21-1663
開設年月日	平成12年12月1日

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム山口あかり園 さくら荘			
ユニットの定員	9名			
ユニットの 利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	4	要介護4	2
	要介護2	3	要介護5	0
	要介護3	0	要支援2	0
年齢構成	平均 82歳	最低 74歳	最高 92歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員が内容確認し、計画作成者が中心になり評価記入し、副主任が取りまとめた後、管理者が最終確認を行った。
評価確定日	平成21年10月28日

【サービスの特徴】

利用者個々の人権・人格を尊重し、生きがいがあり楽しみのもてる共同生活を送っていただき、認知症状の安定改善を図っています。介護(予防)計画に基づいた個別ケアを実施しています。開設当初より取り入れている園芸活動では、利用者と一緒に季節の花を植えたり野菜を栽培して季節感を味わい収穫の喜びを実感していただいています。食事に関しては、地産地消による食材の購入をし、安全で馴染みのある食材を使い、郷土料理や利用者の嗜好を取り入れた献立を作成し三食とも利用者と一緒に調理しています。入浴に関しては、毎晩夜間入浴を行い、ゆったりとした気持ちで入浴していただいています。地域との交流を大切にし、馴染みのある地域のお店での買い物・美容院や外食、ドライブに出かけたり、祭りや文化祭等の地域行事にも積極的に参加しています。同敷地内にある病院・老健・特養等があり、医療・保健・福祉の連携のもとサービスを提供しています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		地域住民がいつも気軽に立ち寄ってもらえる様な働きかけに取り組みたい。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		今後も左記のことを継続していき付き合いを深めていきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		地域住民に認知症に関する情報を発信し、認知症の理解を深めてもらうよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全員で自己評価の内容確認後評価したうえで外部評価を実施する意義を理解すると共に、前回評価結果での改善点については見直し、改善方法の共有を図り具体的に取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的に開催し利用者の活動状況や地域・市との情報交換、家族からの要望、意見交換等を行い、決定事項を活動に取入れサービスに活かしている。都合により欠席された家族には会議内容・資料等を送付又は手渡ししている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターとは日ごろから連携をとっている。書類提出や確認事項等がある場合は、管理者や職員が市の担当窓口に行き、情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	施設内外研修に参加し、制度についての理解を深め支援できるように努めているが、活用する機会がないので職員間での意識はやや乏しい部分がある。	全職員が必要な方への活用支援が出来るよう、今後も施設内外研修に参加し制度への理解を深めていきたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内外研修に参加し理解し意識を深めているが、日常業務の中で無意識のうちに虐待になっていないか、職員間で確認し、話し合い、防止に努めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前の見学(見学時に施設の概要、料金等の説明を行う)や園内行事の茶話会時の参加等で理解・納得を図っている。入居時には重要事項説明書と契約書をもとに十分な説明を行い理解・納得の上契約を結んでいる。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの意見・不満・苦情は直接職員への伝達が困難であるため、常日頃から利用者に寄り添い日々の状況把握に努め、思いを受止め早急に対応できるようにしている。苦情申出窓口・ご意見箱を設置している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	生活状況は月1回発行のホーム便りで報告し、送付時に個々宛に健康状況や連絡事項等を書いて同封している。家族の面会時にも暮らしぶりや健康状況等報告している。必要に応じ電話連絡も行っている。職員に関することは運営推進会議で行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		情報に変更が生じた場合には直ちに新しく作成している。
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		職員一人一人が運営に関する知識や理解を深め積極的に意見や提案を発言できる状況作りに努めていきたい。
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		今以上に柔軟な対応ができる様職員数の確保に努めていきたい
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		施設外研修については、職員の経験年数や希望を考慮し段階に応じて参加できる機会を提供している。職場内研修も計画的に実施している。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		職員の年齢は20代から60代まで幅広い。職員全員が周辺在住であり、昔の話や地域の様子等共通の話題を通してコミュニケーションが図れている
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		他施設の職員との情報交換・交流・職場体験ができる機会をつくり互いの想いを話し、よりよいケアに向け切磋琢磨環境を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		他施設との仲間づくりを通じて外部との情報交換や活動参加の機会を増やし職員のスキルを高めしていきたい。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		給与面等での職員評価を適切に行えるようにより努めていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		職員の利用者への発言が支持的になったり、職員同士の意識の持ち方に違いがあり、ケアより業務となってしまう場合もあり、尊重しながら生活に寄り添っていくという意識付けを研修やカンファレンス等で徹底していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	三ヵ月毎のモニタリングや半期ごとのカンファレンスを通じ、家族の意見をきき、より密に相互・連絡を行いながら一緒に利用者を支えていくことに努めている。		今後も気軽に立ち寄って頂き利用者だけでなく家族の問題も喜びも一緒に考え感じることでよりいっそう家族との関係を深めていきたい
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	気軽に利用者のもとを訪れやすい雰囲気作りに努めると共に、職員の対応の仕方等常に配慮し伝え方など職員あるいは家族から各々一方的にならないよう心がけている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の馴染みの場所へのドライブや買物等、一人一人に合わせて対応している。面会等いつでも気軽に立ち寄っていただけるよう雰囲気作りに努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるように努めている。	家庭的な雰囲気のもと利用者同志がゆっくりと過ごすことが出来るように、ソファ等を設置している。ホール座席も利用者同志の関係性を考え、常に職員が間に入り会話や活動等して楽しく過ごせるよう配慮している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居後の対応方法について家族の意思を重視し可能な限りの支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の様子や言動・家族からの情報等から、本人の思いの理解に努めている。困難な場合でも表情や仕草等よりどのような思いなのか職員間で検討し記録に残しカンファレンス等でケアの共有を行いサービスにつなげている。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に、本人・家族から生活歴等を聞きバックグラウンドアセスメント票を作成し、本人の状態について把握に努めている。まだ生かされていない部分もある。		職員一人ひとりが得た情報はしっかり記録等で伝達していき全員が情報を把握できるよう努めていく。
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録や個々の「出来ること・出来ないこと」を見極めながら、日々の生活状況・生活リズムの把握につとめている。普段と違った言動等見逃さず記録に残し体調管理と共に総合的に把握するように努めている。		ちょっとした変化の見落とし等があると思うので、全職員の意識の持ち方をより向上させていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族の希望を聴きケアプランを作成している。ニーズを明確にし長期目標・短期目標を設定し達成できるようサービス内容を検討している。またニーズに対応できるようカンファレンスを行い介護計画を作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族に出席して頂き、定期的にカンファレンスを行い見直しをしている。またそれ以前に変化が生じたときは本人・家族・関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録・ケアプラン評価表に、日々の様子や月1回の評価・反省として記録を残している。その実施結果を基にケアカンファレンスを行い全職員が情報を共有し実践や介護計画を見直しに活かしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同敷地内にある他施設の催し物に参加したり、緊急時における応援体制を確立している。また隣接の病院より月1回の往診を受け日中・夜間共緊急時対応できる体制をとっている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアによる清掃活動や地域園児・高校短大実習生との交流等はあるが施設への受入れが中心で、こちらから地域へ出かけ働きかけをするまでにはしていない。警察・消防については強力体制が整っている。	公設機関・教育機関・民間施設等にGHを知っていただけるような冊子を配布したり地域の活動行事にも積極的に出向いて行き地域と協働で支援が出来るよう取り組みたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	家族・近隣住民・ボランティア等の施設見学について、気軽に立ち寄っていただけるような体制をとっている。併設の施設の機能を含めて地域開放している。	施設機能をより開放していくよう努める。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人・家族の意向で、外部の宅老所の利用を支援している(1名)。身体状況の変化によっては他施設・病院の介護支援専門員やソーシャルワーカーとも連絡をとっている。	必要に応じ、入居前の担当介護支援専門員等との情報交換等できるように関わりをもっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		認知症の専門医に気軽に質問や相談が出来るような関係を築いて利用者が安心して受診できるよう支援していきたい。
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		他医療機関の病院関係者との情報交換を密にし、連携強化に努めたい。 今後も家族・病院側の理解が得られれば、カンファレンスへの参加をしたい。
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		今後重度化に伴い終末期のあり方について家族と話し合う機会をもつとともに、職員の認識を高めることに努めたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		今後重度化に伴い終末期のあり方について家族と話し合う機会をもつとともに、職員の認識を高めることに努めたい。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		情報提供書や電話連絡、移動場所によっては直接ケア担当と事前に情報交換を行い、本人の混乱が最小限に抑えられるよう支援している。 住み替え後も、必要に応じて情報提供をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個々の人格を尊重し、言葉かけや対応には十分配慮しているが、十分でない点もある。記録類は事務室内に保管し、不必要になった書類はシュレッダーにかけ破棄している。</p>	<p>個人情報については規程を設けているが、プライバシーについては、ケアや日常生活それぞれの場面で配慮した声かけ・空間設定を行い、職員全員の共有の意識を図りたい。</p>
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人の思いや希望が表せるような声かけに配慮しているが、まだ職員の一方的な思い込みで判断する場面や説明不足で混乱する場面が見られる。スピーチロックにならないよう心がけている。</p>	<p>利用者一人ひとりの思いに添ったケアを目指し、利用者を尊重し、利用者の立場に立って寄り添える意識をしっかりと共有していく。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>本人のできることは見守り、一緒に行いながら、また不十分なところは職員が再度行い支援している。馴染みの物は家族と話し合い自分で管理してもらい、空間設定を大事にしている。また、好きなことや趣味もそれぞれが自由に行え、楽しい時間が持てるよう支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な一日の流れは決まっているが、利用者のその日の状態を把握し、このペースに合わせた支援を行っている。ホールでも居室でも自由に過ごせたり、他者とソファに座りゆっくり話をしたり、散歩や買物ドライブも毎日行い、自宅での生活に近づけるよう希望に添った支援をしている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の着がえは自分で用意し、着がえてもらっている。季節感のないものや組み合わせのおかしいものは、プライドを損ねないよう援助している。地域にある美容院に希望のあるときは付き添い、でかけている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>郷土料理・季節にあった食事の提供、利用者個々の嗜好を反映した献立をたてている。食事の準備や調理・片付けを一緒に行い、職員は利用者と同席して食事をしている。個々の専用の茶碗・箸・湯呑みを使用し、楽しい時間を過ごしている。</p>	<p>ひととおりの手順が利用者主体で行えるよう検討したい。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現在、飲酒・喫煙される方はいない。カリ-制限のある方も、おやつは皆と一緒にのものをおいしく楽しんでもらえるように提供している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用し一人ひとりの排泄状態に合わせ支援している。夜間の失敗を考え、パット使用に切り替えることもある。なるべく本人の能力や意向・思いに添った支援をしていきたい。</p>	<p>習慣を活かした気持ちのいい排泄支援について、全職員の共通意識を図っていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日夜間に行っている。利用者の意志・希望を確認した上で入浴してもらい、浴室・脱衣場で2人の介助者が利用者の状態に合わせ支援している。利用者の状況に応じて、昼間入浴を実施する場合もある。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	起床・消灯時間は定めておらず、日中を含めてその方のペースに合わせて支援している。夜間不眠の訴えがあるときは、話を聴き、付き添い、安心して眠られるよう支援している。また、自室に馴染みの家具等を置き、安心できる空間作りを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	「できること」「できないこと」を見極め、一人ひとりが役割を持ち楽しみがもて、張り合いある日々が過ごせるよう支援している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族の意向を重視し、管理できる方は自分で持ってもらい、管理できない方は事務室で預かり、買物時は財布を持ってもらい、職員と一緒にやっている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩したりドライブや買物も毎日行い、気分転換ができるよう外出支援している。		勤務体制上、出かける時間帯や利用者等は職員主導で決めている。利用者の希望に添えるよう、勤務体制の充実を図りたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の参加協力の下、春の花見や秋の紅葉見物など、お弁当を用意し外出することで、季節感を楽しみ、気分転換を図っている。また月に1回レストランや料亭に出かけ、外食の楽しみを味わってもらっている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分でかけられる方には、随時行ってもらっている。知人・友人等からもかかってきたときは取り次ぎ、ゆっくり話をしてもらっている。(事務所内の電話)暑中見舞いや年賀状は援助にて一緒に書き送付している。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、ゆっくり話をしていただけるよう配慮している。過度な声かけや訪室を控え、居心地のよい雰囲気と職員の対応にも気を配り、再度来訪していただけるよう心がけている。(居室は全て個室)		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば随時対応できるよう、食事・入浴・寝具等準備している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		現在、ホームの昼食にご家族を招き、一緒に楽しんで味わっていただく機会を計画している。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		スピーチロックについても全職員が正しい理解をし、共通認識の基で利用者に対して尊厳ある支援の取り組みをしていきたい。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		ヒヤリハット報告書を細かくまとめ、改善策を検討した上で事故につながらないように、その都度全職員で共有し、発生防止に努めていく。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		マニュアルをしっかりと把握し定期的な講習が受けられるように努め、全職員が同じ意識で取り組む。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリハット報告書については、しっかりとした報告書に書式を変更し、細かく記録分析し利用者の個々の傾向をつかみ、事故につながらないように対策に取り組んでいきたい。また、全職員回覧し、発生防止への意識を共有する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災についてはGH全体でマニュアルに基づき計画を立て、日中・夜間とも想定して訓練を行っている。また隣接している施設と協力体制にあるが、地域住民への働きかけはない。		日頃より地域の方々とのつながりを深め、協力を得られるよう働きかけに努めたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	リスクを考え環境整備をするなど対策を講じている。家族にも利用者の身体状況から様々なリスクを説明し、抑圧感のない生活への支援について話をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	協力病院のかかりつけ医や看護師に相談、受診をしている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者が服用している薬は個別にファイルしており、薬の作用・用法・用量なども把握している。変化があれば、すぐに医師に報告し、指示をもらっている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排泄チェック表にて排便・排尿の確認をしている。また医療との連携もとれている。食事の工夫、散歩やアクティブ活動等を促し、食事や茶話会時での水分補給の声かけも行っている。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケアを個々の状況に合わせて実施している。義歯は必要に応じて洗浄剤を使用、歯ブラシ・コップは定期的に消毒し、歯ブラシの交換は担当にてチェックし、交換している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立担当職員が利用者の好みを聞いたり、他の職員の意見を参考にし、栄養バランスのとれた献立を立てている。利用者に応じて、形態や調理法を変えている。併設施設(特養)栄養士に定期的にチェックしてもらっている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症に対するマニュアルを作り、研修や配布物・対策委員会等で、予防の意識を高めている。手洗い・うがいは、利用者・職員だけでなく、面会者にも協力していただいている(マスク着用も)。インフルエンザの予防接種は、希望を聞き対応している。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用具・食器は全て除菌洗浄後、熱乾燥を行っている。食材も日付をつけ、新鮮なものを使用。生野菜等は手袋着用で調理している。朝の清掃時、台所床は除菌洗浄剤を用いている。衛生チェック表にて毎日項目確認を行い、衛生管理の意識を高めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、四季を通じて花壇に花を育て、玄関内にも正面には、利用者の生花を置き、飾っている。段差なくバリアフリーとなっている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共有空間は窓が多く明るい。廊下の窓にはブラインドがないので、直接日光が入るため夏場はよしずを使用し対応している。日めくりカレンダーや季節の花々を生け、生活感や季節感など、五感に働きかけている。また、利用者作成の作品(絵)や小物等を展示するなど、落ち着いた雰囲気配慮している。	季節感のある壁面飾りの工夫で、目で楽しんだり懐かしく感じられたり、五感に働きかけゆっくりと心地よく過ごせる空間をより一層作っていきたい。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓とは別に、リビングソファを置き、少人数で過ごせる空間を作り、また、多種の雑誌を見たりテレビを観たり、好きな過ごし方ができるように工夫している。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していたものや、馴染みのあるものを持って来てもらっている。家族と相談し、季節ごとの衣類や寝具等、一緒に入れ替えをし使いやすく心地よい居住空間に努めている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者の状況に合わせて、こまめに温度調節している。季節により、除湿や加湿、換気にも配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	建物内部全体がバリアフリーになっており、手すりが取り付けられている。布団の上げ下ろしのできる方は畳に直接敷いたり、機能的なベッドがよい方はベッドを使用したりし、自立した生活が送られるよう安全にも配慮し支援している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレには大きく「トイレ」と貼り紙をし、内部のゴミ箱への説明も座った位置で見えるよう大きく説明の貼り紙をしている。トイレもボタンやレバーで流せるよう、利用者の使用箇所により使い分けている。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホールより出られる広いバルコニーには、季節の花を植え、お茶を飲みながら楽しんでいる。また専用の畑があり、家庭菜園として一緒に植えつけから収穫まで行い、また、テーブル・イス等を置きゆっくり過ごせるようにしている。ベランダは洗濯物干し場となっており、各々自分で干し取り込んでもらい、日常の活動支援をしている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない